

経済発展論

ーグローバル化と私たちの生活ー

担当者指名：佐藤 創

(研究室番号：Q6013)

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

私たちが日ごろから接している食料や紙、マスク、スマートフォンなどはどのような生産・流通プロセスを経て店頭に並んでいるのでしょうか。新型コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻は私たちの依拠するこうした生産や貿易関係にどのような影響を与えているのでしょうか。開発途上国におけるインフラ建設や貧困削減に対してなぜ先進国は援助し続けているのでしょうか。こうした経済関係の国境を越えた深まりや海外援助の展開や、さらには海洋プラスチックごみ対策や SDGs などの国際的な目標や取決めは、各国、とりわけ開発途上国の雇用や環境、制度など、広い意味での経済や社会の発展と、どう相互作用しているのでしょうか。

現代を生きる私たちの生活は、ますます経済のグローバル化に規定されるようになってきています。こうした国際経済、国際開発の領域で扱われる問題群を、歴史と理論の双方から検討し、とくに開発途上国の経済発展のメカニズムを考察することが、本プロジェクト研究の主眼です。ディシプリンとしては広義の経済学が基本となりますが、地域研究、開発研究、歴史研究などとの対話を重視し、総合政策学部に対応しい総合的な研究を志します。

2. プロジェクト研究の進め方

おおよその計画としては、3年次については、数冊の基本文献の輪読をまず行い (Q1、Q2)、次に、テーマをいくつか決め、データ収集や分析を行い、個人あるいはグループで発表 (Q3)、そのうえで、各個人の卒業研究のテーマを決定してもらいます (Q4)。4年次には、卒業研究の研究計画を確定し、必要な文献調査・実地調査を進め、卒業研究を実施してもらいます。

これまでに輪読した基本文献の例

- アマルティア・セン(2000)『貧困と飢饉』(岩波書店)
- ウィリアム・イースタリー(2003)『エコノミスト南の貧困と闘う』(東洋経済新報社)
- 遠藤環ほか編(2018)『現代アジア経済論』(有斐閣)
- ジャレド・ダイヤモンド、ジェイムズ・ロビンソン編(2018)『歴史は実験できるのか：自然実験が解き明かす人類史』(慶應義塾大学出版会)
- 山下範久編(2019)『教養としての世界史の学び方』(東洋経済新報社)
- エリック・ウィリアムズ(2020)『資本主義と奴隷制』(ちくま学芸文庫)
- 紀谷昌彦・山形辰史(2019)『私たちが国際協力する理由』(日本評論社)

- E・F・シューマッハー（1986）『スモール イズ ビューティフル：人間中心の経済学』（講談社学術文庫）

3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

必須ではありませんが、経済学、統計学に関連する科目、国際開発に関連する科目、開発途上国の地域研究に関連する科目をいくつか履修していることが望ましく、あるいは3年次以降にできるだけ履修することが望まれます。

また、このプロジェクト研究を希望する学生は、原則として、3年次のQ2に開講される総合演習B（担当：佐藤）を履修してください。やむを得ない理由で履修が難しい場合には相談してください。

なお、このプロジェクト研究を希望する場合、国際、公共、環境いずれのコースを履修しても構いません。

4. プロジェクト研究開始までの準備

以下の課題図書を春休みに読了しておいてください。

- 角山栄『茶の世界史：緑茶の文化と紅茶の世界』（2017年（改版） 中公新書）
- アマルティア・セン『貧困の克服：アジア発展の鍵は何か』（2002年 集英社新書）
経済学の基礎のない方、補強したい方は次の一冊も目を通して読んでください。
- 根井雅弘『経済学のことば』（2004年 講談社現代新書）。

5. その他

本プロジェクト研究に参加するみなさんには、国際経済や国際開発に関する問題群について、体系的かつ複眼的な視点を獲得してほしいと考えています。当然のことですが、大学とは、教員も学生も、ともに学問に取り組む場であり、本プロジェクトに参加を希望する皆さんも、関心のある研究対象を明確にして、主体的に研究に取り組むことが期待されています。

6. 選考方法・日程

志望理由書、面接、成績に基づいて選考します。詳細については、プロジェクト・アワーで説明しますが、志望理由書には、国際経済、国際開発のこういった分野に関心があるか具体的に記載してください。また、原則として、第1次以下いずれの選考についても、プロジェクト・アワーに出席していることを応募の前提条件とします。